

令和7年度 第118回日展 大臣賞受賞者一覧

内閣総理大臣賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	びふう 微風	きしの けい さく 岸野 圭作		会員	画面全体に描かれたのは、小さな実を付けた葉の群れのみ。右上方から左下方に向け、対角線に朱赤の光が走り、ドラマチックな様相を表出する。葉群れの上を吹き渡る微かな風の動きが、植物の生命感を伝え、光と影の強烈なコントラストが作品に深みをもたらした秀作である。
洋画	マイ・ウエイ	おおや よしお 大谷 喜男		会員	長年に渡り、画面上にサーカスのピエロを登場させ、自己の生き方を投影させたテーマを追求して来た。大胆な画面構成を基軸とし、色彩にコントラストを効かせ、フォービックな筆致で力強く表現している。今作では、一層作者の心情が作品に込められており、その熱量が見る者の心に深く染み入って来る。

文部科学大臣賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
彫刻	そうてきふ 双笛譜	つつみ なおみ 堤 直美		会員	二人の女性像が背を合わせ、こちらに向って笛を吹く。二人の人体が作り出すハーモニーが見事である。ボリュームのある具象表現はグレコ・ローマン彫刻の、文展初期からの典型の歴史を伝えているようである。カールした髪が互いにからむように、笛を奏でる二人は呼吸がびたりと合い、繊細な指使いも乱れなく、素晴らしい表現である。
工芸美術	せいめい いずみ 生命の泉	むら た こう けん 村田 好謙		会員	白い葉脈が這う巨大な円形オブジェ。降り注ぐ雨のしずくは泉を生み、奥行きを感じさせる中央の煌めくブラッドレッドは、作者の意図する生命の泉であろうか、地の底か、限りない宇宙の果てか…。メタル、水晶、漆、ガラス、金、プラチナ、貝と多彩な材質を用いる独創の技が効果的である。日展・工芸美術の会場に際立つ存在感を示している。
書	とほし 杜甫詩	いとう いっ しょう 伊藤 一翔	一	会員	学書して来た古典に裏付けられた線質と造形が見事である。ことに行のうねりによる空気の流れがあり、ことに4行目を押さえ気味に執筆し、巧みに美しい余白を生み出している。 これに加えて自らの美意識を表現しており、全体のまとまりが素晴らしい。

令和7年度 第118回日展 東京都知事賞受賞者一覧

東京都知事賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	おんしつ 温室	おおとよ せい き 大豊世紀		会員	息づまるような温室の熱気と生命力を抽象性の高い濃密な描写で表現している。近づくと金箔の箔足が見え、豪華な花火のような植物も温室の屋根を透かす空も重厚で複雑な顔料の重層によって生み出されていることがわかる。青い蝶が空間に舞っている。人工物の直線と奔放な植物の運動感の融和が作品に秩序をもたらしている。
洋画	あかがわら しま しゅうらく 赤瓦のある島の集落	ひらの ゆき お 平野行雄		会員・審査員	特に強い個性はみられないが、沖縄の島の雰囲気がよく表われていて好感が持てる。現場に行き描いているのがよくわかる。現場写生の大切さを示しているといえる。色がさわやかな事もひとつの要因である。永く人物画を描いていたが今回の風景画の作品は傑出しているといえる。
彫刻	いつのひか いつの目か	しまだ みね お 島田見根夫		会員	「体幹堂々」という言葉の浮かぶ木彫男性像である。正面を向いた裸足の立ち姿は実に安定している。と同時に「春風到来」と呼びたくなる柔和な表情は、心の平和を感じさせる。人間とは何か、その美しさとは何かを考えながら制作するのが日展の彫刻である。この立像は、作者の強く優しい人間観を素直に表わす秀作である。
工芸美術	あ そ こうぜん 阿蘇煌然	たかつ あけみ 高津明美	津山明美	会員	阿蘇と取り組んだ積年の結晶ともいうべき集大成の作品である。 外輪山の重層する山波を、赤色系統の諧調のもとに蠟染技法を駆使し、ソフトに仕上げた快心作である。とくにこの作品は朝夕に気象の変化に伴い変容する瞬間的な山容の情景を見事に繊細優美に捉えた円熟の作である。
書	つきま 月待つと	の だ まさゆき 野田正行		会員	素材とした和歌、用いた料紙、そして書きぶりがよく調和している。潤筆、渴筆を巧みに織りませ、躍動感溢れる書である。また、文字の大小、おさまりの良さは筆者の鍛錬の成果といえよう。 暖かい丸味のある線、切れ味の鋭い線の調和のさせ方には感心させられた。

令和7年度 第118回日展 日展会員賞受賞者一覧

日展会員賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	<small>そうれつ</small> <u>蒼列</u>	<small>はせがわまさや</small> 長谷川雅也		会員	背景をブルーでまとめた花が、生き生きと美しい色彩で表現されています。優れた技術、描写力の持ち主でもあります。叙情溢れる画面からは、そうした技術のみではなく、作者の想いや絵画センスが伝わってきます。会員賞を与えるに相応しい作品であると判断しました。
洋画	<small>きぼう しずく</small> <u>希望の雫</u>	<small>いけがみ</small> 池上わかな		会員	「日常の喧騒を離れ、静寂に差し込む一筋の光。祈りを込めてそっと花を添えると、その光の雫は未来を映し出す輪郭となる。」作者の描こうとする気持ちが的確に描けた秀作である。 何げない日常の中にみつけた希望の光と花。作者は画家であると同時に詩人となった。暗い家屋の中での明るい日差しの表現は的確である。暖かい温度まで感じる。
彫刻	<small>きおく かぜ</small> <u>記憶の風</u>	<small>おがた のぶゆき</small> 緒方信行		会員	岩に座して遙か遠くを見つめている。その眼は過ぎた過去を愛しく想っているのであろう。左足を両腕で抱えるようにして心の安定を求めている。背中の丸みが、記憶を追って、忘れられない過去のありし日を語っている。作者はきわめて繊細な表現で具象を追究し、過ぎし日をやさしく見つめる女性の感情を見事に捉えている。
工芸美術	<small>ふよう</small> <u>芙蓉</u>	<small>かわい とくお</small> 河合徳夫		会員	何といたっても目を惹くのは白く美しい大輪の芙蓉の花。葉の濃い藍がレリーフ状に盛り上げた真っ白な花びらを際立たせ、淡い黄色の花蕊が楚々とした愛らしさを添える。胎を取り巻く細かな印花と吹墨の色合いが、背景に緩やかなリズムを作る。はんなりとした心穏やかな静かな時を、見る者にとどけてくれる。
書	<small>ほうじょうりんりん</small> <u>方城臨々</u>	<small>にしむら とうけん</small> 西村東軒	福賀	会員	躍動感溢れる字形と多彩な線、潤渇の変化が見事に調和し、非常に魅力的な作品となっている。 余白の活かし方も秀逸であり、白の輝きを感じさせる点も大きな見所といえる。 優れた作品には、接する度に新たな発見や喜びをもたらす力があるが、この作品はその力を余すところなく備えている。